

第1学年B組 道徳学習指導案

期 日 令和元年10月11日 第5校時

生徒数 男子18名 女子14名 計32名

指導者 教諭 川村 敦

1 主題名 謙虚な心 指導内容：相互理解・寛容（B－9）

2 教材 「なぜ勉強するのですか」（出典：岩手県道徳教育郷土教材集 ふるさといわたの心 中学校編）

3 主題設定の理由

（1）道徳的価値について

「B 主として人との関わりに関すること」の「相互理解，寛容」の項目では、自分の考えや意見を相手に伝えるばかりではなく、「寛容の心を持って謙虚にほかに学び」自らを高めること、とある。それぞれの立場において見方や考え方が異なり、意見の食い違いや衝突が起こることがある。「自分の意見が常に正しい」という考えを双方が持ち続けるのであれば、解決の糸口は見えなくなる。要は、「自分も過ちを犯す可能性がある」ことや「自分では解決できないことも他者によって解決できることもある」ことを深く理解し、他者の助言や忠告に謙虚に学ぶことも、よりよい人間として成長を促すために大切なことと考えられる。互いのもつ個性を尊重しながらも、違うものは違うと認め、寛容の心や他者の意見を認めて素直に取り入れる謙虚さを持って他者に学び、自己を高めることが求められる。

（2）生徒の実態について

1学期に進路学習をした際、クラスの生徒全員が「高校に進学したい」と答えた。「将来のために必要だから」や「高校までは卒業しておきたい」など、漠然とした理由が大半を占めた。その日の進路学習からは「日頃の勉強の積み重ねが大切」という認識を持ったが、日々の授業や宿題提出状況を見ると、勉強に対して消極的で計画的に勉強を進めるのが苦手な生徒も少なくはない。また、「好きなことだけをやりたい」や「やりたくないことはやらない」態度は、学級の生徒たちの中にも時々見られ、実際に口にする生徒もいる。そういった生徒に対しては、教員や保護者、級友などが気にかけて指導や声かけをしたりするが、言われた生徒からすれば説教や叱られに受け取り反発心が先行することもある。自分と他者との関わりについて、広く考える必要がある。

（3）教材について

本題材は、岩手県の新聞に生徒から投稿された記事である。子どもにありがちな、他者に「勉強しなさい」と言われるとやる気が失せたり他者に勉強を強制されるのが嫌であったりする一方、自分自身で計画的に勉強や宿題を終わらせることが苦手な姿が映し出されている。教師や保護者などの声かけと自分のやる気について考えさせながら、自身と他者の関わりについて考えさせたい。

（4）指導に当たって

指導に当たっては、特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値の良さや大切さを観念的に理解させたりする学習に終始することの無いよう、配慮していく。

4 本時の学習指導

(1) ねらい

生徒や教師の立場や考えを通して、自己と他者とのかかわりを見つめ、寛容な心情を持つ。

(2) 展開

段階	学習活動 (○発問 ◎主発問)	教師の活動と手だて
導入	<p>1 展開に結びつけるための発問</p> <p>○「勉強」は、自分でするものか、他者に言われてするものか</p> <p>○「勉強」について、先生や保護者に言われると、どんな感じだろうか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1 学期に行った進路学習なども話題にしながら質問する。 ・体験などに基づき、素直に意見を交わす。
展開	<p>2 学習課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>それぞれの立場や考えを通して、自己と他者とのかかわりを見つめよう</p> </div> <p>3 資料からの考察・話し合い</p> <p>○教師が「自分のためです」とすぐ言葉を返したのは、なぜだろう。</p> <p>○「自分のため」とはどんなことを言いたかったのだろう。</p> <p>○私が「やるっきゃない」と思うのは、いつであろうか。</p> <p>○(略年表から)あなたならば、「やるっきゃない」と勉強し始めるのは、いつ頃とを感じるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を黙読後、範読する。 ・授業の勉強ばかりではなく、広く「勉強」について考えさせる。
終末	<p>4 まとめ</p> <p>○あなたは、「教師」と「生徒」では、どちらに共感するか。</p> <p>◎「誰がなんと言おうと、私はこの考えで通すつもりだ」と言った作者は、このままでよいだろうか。</p> <p>Aシートに記入し、シールを貼る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作者に共感を覚えさせつつ、年間を見通しながら判断させる。 ・グループ討議 ・会話のやりとりについて時期を意識させる。(まなボード利用) ・「寛容」…心が広くて、よく人の言動を受け入れること。他の罪や欠点などをきびしく責めないこと。

(3) 評価

- ・教材から自身の考えと他者の考えを照らし合わせながら、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができている。